SHEET METAL CARD CASE —— ステンレス製 スライド式名刺入れ

片手でひらき、1枚だけ取り出す。

本作は、自社ブランド製品を持たないサプライヤー企業として、自社の技術や強みをより多くの方に知っていただきたいという想いから生まれた名刺入れです。

自社で製作した名刺入れを使用することで、名刺交換の場で自然と会話が生まれ、私たちの技術やものづくりへの想いを伝えるきっかけになるのではないか。そんな発想から製作を始めました。

やがて、名刺入れを目にした社外の方々から「ぜひ自分にも作ってほしい」という声が寄せられ、商品化・販売へと発展しました。現在は、お客様のロゴマークやロゴタイプを蓋にレーザー加工し、それぞれのお客様だけの特別な名刺入れとしてお届けしています。



作品仕様

外形寸法	97 × 62.7 × 7 mm
材質	SUS304 HL t0.8（模様部のみ鏡面磨き）
開閉方式	軸を中心に蓋が回るスライド式
回転軸	購入品ピンをカシメ止め
穴径	蓋 Φ2.3／本体 Φ2.1
名刺ガイド	曲げで傾斜をつけたプレートを2液型接着
蓋の意匠	幾何学模様の透かし（非対称）
主な加工	レーザー／曲げ／カシメ／接着／研磨



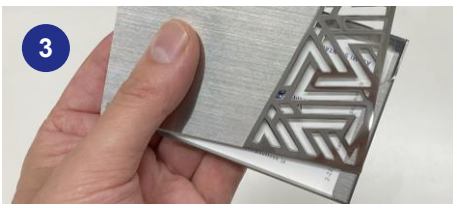
親指で蓋を回してひらく

軸で回るスライド式。ヒンジ式にはない指先ひとつの動き。



同じ親指で、1枚だけ送り出す

曲げで傾斜をつけたガイドプレートで、一番上の1枚がせり上がる。



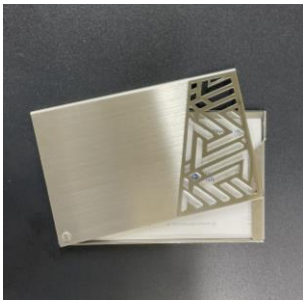
そのまま蓋を閉じる

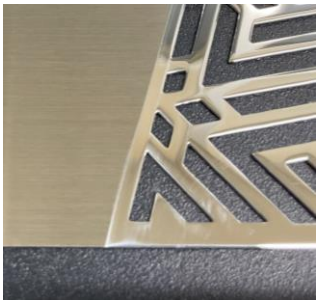
開けてから閉じるまで、片手で完結する。

鏡面とヘアライン —— 2つの質感を共存させる

ベースにはヘアライン仕上げを採用し、幾何学模様の透かし加工部分にのみ鏡面仕上げを施しました。同一素材の中に異なる2つの質感を共存させ、その対比を生かした非対称のデザインとしています。

また、鏡面仕上げを透かし加工部分に限定することで、光沢による華やかさを演出しながらも、鏡面部分の面積を抑え、指紋や皮脂による汚れを目立ちにくくしています。これにより、日常的な拭き取りなどのお手入れの負担を軽減し、意匠性と実用性の両立を図りました。





名刺交換は、新しい出会いがはじまる特別な瞬間。

企業ロゴに込められた歴史や理念、働く人たちの誇り。この名刺入れが私たちの技術と想いを伝える存在であるように、お客様にとっても誇りや大切にしてきた想いを伝える存在となり、新たなビジネスの可能性を広げるパートナーとなることを願って製作しました。

溶接をやめ、曲げで一体化した回転機構 — 合格率 約20% → 約90%へ



初期型 点付け溶接の軸受けプレート＋自社製回転軸

課題1 精度の積み上げ

回転軸のピン精度	蓋の曲げ精度
軸受けの取付角度	溶接精度

全てが高い水準で一致しなければ、安定した品質を確保できなかった。

課題2 片手で閉じると干渉

指の押圧で蓋がわずかに傾き、側面のストッパーに当たってスムーズに閉じない。

合格率 **約20%**

現行型 — 曲げでつくる

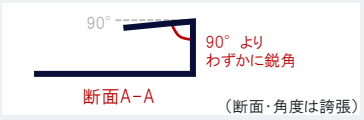
① 軸受け・ストッパーを曲げで一体化

溶接していた軸受け・ストッパーのプレートを本体の展開に組み込み、曲げで成形。取付角度や溶接のばらつきという誤差要因をなくした。



② ストッパーを延長し、わずかに鋭角へ

ストッパーを可能な限り延長し、曲げ角度を90°よりわずかに鋭角に。片手で押して蓋が傾いても、ストッパーの上にスムーズに収まる。





③ 穴径差で回転軸の連れ回りを防ぐ

購入品ピンで軸精度を一定化。蓋側の穴を本体側より0.2mm大きくし、軸を本体側に保持して蓋と一緒に回らないようにした。

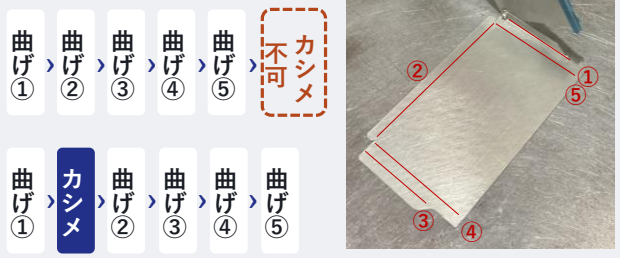


× 同じ穴径
蓋と一緒に軸も回る

○ 蓋 Φ2.3／本体 Φ2.1
軸は本体に残り、蓋だけ回る

④ 曲げの途中でカシメる

曲げ上がった後はカシメ工具が入らないため、カシメを曲げ工程の途中に入れ、曲げ順を組み替えた。



試作6個の実績
合格率 約20% → **約100%**

ガタつきがなく、蓋が勝手に開閉しない、適度な抵抗感のある安定した開閉感を実現。
品質基準：本体左上角部と蓋の干渉がない／適度な抵抗で開閉できる／ガタつき・意図しない開閉がない

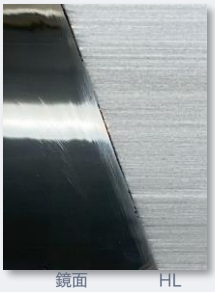
鏡面とヘアラインの境界を明瞭にする — 3つの方法を検証



不採用

【1】2B材 → 鏡面 → 重ねてHL

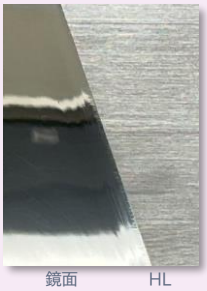
鏡面処理の上にHL処理を重ねると境界が不明瞭に。



不採用

【2】2B材に重ねずに処理

境界をテープで保護。テープの段差で磨けない箇所ができ、素地が残った。



採用

【3】HL材の模様部を鏡面研磨

HLの筋に深さがあり研磨負荷は大きいが、境界が最も明瞭で仕上がり最良。